

# 暮らしを vol.11 やさしくする エコな気持ち

枝廣淳子 イラスト●福まちえ

## これからのエネルギーシフト

### プラス面と マイナス面を考える

日本のこれからのエネルギー、電力についての議論が盛んになっています。大切なのは短期と中長期と区別して考えること。「どの選択肢にもマイナス面とプラス面があるので総合的に判断する」ことですね。現在は電力不足解消に向けて、火力発電（新規設備は間に合わないのので、使っていないかった火力発電所をもう一度立ち上げるなど）が増えています。設備はすでにありますから、立ち上げのスピードは速いのです。

しかし、火力発電を使うことでCO<sub>2</sub>が増えてしまうことは、マイナス面です。加えて化石燃料の値段が高騰していますから、火力発電を使えば使うほど日本から海外へとお金が出て行ってしまいます。これもマイナス面。

一方、自然エネルギーは、CO<sub>2</sub>がほとんど出ません。国内の資源を活用するため、きちんと設計すれば海外にお金が出ることにもなりません。自然エネルギーは「広く薄く」存在するため、大規模集中型の発電所に比べると、設備を設置するのに広い面積が必要になります。

でも「だから自然エネルギーはだめ」ではなく、どのように上手に集め、活用するか、知恵の絞りどころです。

### 原子力でも 化石燃料でもない世界へ

いろいろなプラス面・マイナス面を考え合わせると、中長期的には「脱原発+脱化石燃料+自然エネルギーへのシフト」が必要だと私は考えています。風車に鳥がぶつかってしまおうというバードストラックなどのマイナス面は、できるだけ「やり方や技術」で減らしつつ、自然エネルギーを増やしていく必要があります。同時に「需要そのものを減らす」ことが必須です（原子力でも自然エネルギーでも、需要が増え続けるとしたら絶対に足りなくなるからです）。マスメディアやネットを含めてあらゆる情報に関して「日本のこれからのエネルギー」についての話題が出たら、「これは短期の話？」「それとも中長期のこと？」「プラス面だけ言っているけど、マイナス面は？」と、自分なりに情報を整理し、分析していきましょう。

短期的に決断を迫られると、

「短期的なプラス・マイナス面」だけで判断しようとしてしまいがちです。「原発が×なら、しかない、火力発電だ」みたいに。「原子力か、化石燃料か」ではなく、「原子力でも化石燃料でもない世界」への移行は可能です。これは「ただちに」ではありませんが、「ただちには無理」だからといって否定する必要もないですよ。30年後、50年後にどういう姿になってほしいか、ですから。

これからの日本のあるべき姿、みんなが幸せに安心して持続可能に生きられる社会をつくっていくために、1人ひとりが考えること。そしてまわりの人たちと「未来のエネルギーどうしたい？」「私はこう思う、あなたはどう？」と対話することが大事な一歩だなど、最近よく思うことがあります。そこで、お茶を飲みながら気軽におしゃべりできる「お茶飲みばなし（電力編）」<http://shes.org/news/siawaseken20110414.pdf>を作ってみました。こちらもぜひ、活用してみてくださいね。



えだひろ じゅんこ  
環境ジャーナリスト、翻訳家。  
東京大学大学院教育心理学専攻修士課程修了。(有) イーズ代表、幸せ経済社会研究所所長、(有) チェンジ・エージェンツ会長、NGO ジャパン・フォー・サステナビリティ代表。講演、執筆、翻訳等の活動を通じて、「伝えること、つなげること」のうねりを広げつつ、変化を創り出す仕組みを研究。主な著書に『地球のなのおし方』『「エコ」を超えて-幸せな未来のつくり方』『不都合な真実』『私たちの選択』などがある。  
(<http://www.es-inc.jp/>)